

『立山黒部』世界ブランド化推進会議」第5回ワーキンググループ 議事録

日 時：平成31年3月25日（月）

10:00～11:00

場 所：県民会館401会議室

1 開会

2 挨拶（猪俣観光・交通・地域振興局長）

3 議事

（1）各プロジェクトの進捗状況等について

【山田座長】

おはようございます。ワーキンググループ座長の山田です。今日は東京から空路で来ました。お天気が良く北アルプスの山々の眺めが最高でした。

本日も皆さんにご議論いただくことがたくさんあります。なにぶん時間がないものですから、早速始めさせていただきたいと思います。お手元にあります次第に沿って進めさせていただきます。

議事に入りますが、各プロジェクトの検討状況等に関しましては、これまで同様、各事務局から説明いただきます。その後、皆さまからご意見いただきますので、よろしくをお願いします。

皆さまご存じのように、各プロジェクトにはまだまだ様々な課題がございます。皆さまにはいろんなご意見をいただきたいと思います。立山黒部を世界ブランド化していくということは、皆さんの議論でより良いものにするということです。いつものお願いですが、それぞれのお立場はあるかと思いますが、ぜひ建設的で前向きなご意見をたくさんいただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、本日は7つのプロジェクトについての議論です。説明は3つに分けて行いたいと思います。まずは、お手元の資料の「02アルペンルートの営業時間拡大」および「06滞在プログラムの充実」について、事務局であります立山黒部貫光様よりご説明をお願いします。

●02アルペンルートの営業時間拡大

●06滞在プログラムの充実

（資料に基づき、事務局（立山黒部貫光株）より説明）

【山田座長】

どうもありがとうございました。それでは今のご説明につきまして、皆さまからご意見をいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

【環境省信越自然環境事務所 奥山所長】

データの見方についてお尋ねしたいんですけど、アルペンルートの営業時間拡大のほうで、2ページ目に8月12日と14日、前倒しをしなかった場合に90分待ちが発生したという報告で、前倒しした場合の効果は確認できなかったというのが次のページにあります。この90分待ちというのが、最初の始発についてということなのか、その日全体を通じてこうなったということなのか。また、同じように前倒しできなかった日というのは、結局何十分待ちで済んだのか、具体的な数字があるのか教えていただけますか。

【立山黒部貫光(株) 永崎専務取締役営業推進部長】

ご報告をいたします。私どもは天候を勘案したうえで早朝運転のケーブルカーを予測しているのですが、残念ながら8月12日以降の件につきましては、6時の始発で十分いけるという形のままで予測していました。結果として、8月の12日の件につきましては、やはり先ほど申しましたように、11日の天候が悪かったために一気にそこが膨れ上がってしまったという展開でございますが、14日につきましては、これは私どもの予測が外れてしまったということだろうと思っておりますので、今後ここにつきましては課題を残しているところだろうと思っております。

それから、90分以上の待ち時間以外のところにつきましては、20分から1時間の間ぐらいの待ち時間で済んでいるというふうに、ご理解いただければと思います。

【山田座長】

ありがとうございました他の方がいいかでしょう。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

まず滞在プログラムの充実ということで、たくさんやっていただきまして、かなり実効もあったのではないかなと思って眺めております。基本的に立山というのは自然公園ですので、自然を売り物にしているのではないのかと思います。ですから、いわゆるハードではなくてソフトのほうでブランド化を推進していくという基本姿勢は良いと思っております。特に弥陀ヶ原、天狗平を中心にして、利用者の意外と少ない場所をソフト面で、いわゆるガイドを中心としたネイチャーガイド、登山ガイド等いろいろありますけれども、その辺を中心としたプログラムを組んでいただくことによって、いろいろとできるのではないのかと思っております。

この中に長野県側との連携も必要と、そのとおりでと思っております。現在、黒部ダムのほうを聞いてみますと、富山県側はほとんど何もしていないのではないかというような印象を私も持っていて、一緒に長野県側が何かやってくれるような感じがいたしますので、その辺もやっていただければなと思っております。以上です。

【山田座長】

ありがとうございました。プログラムに関しては森田さんの方で何かございますか。

【(株)エコロの森 森田代表取締役】

今回のプログラムについてTATECOの当事者として、ガイドツアーをやらせていただきました。ガイドツアーはもともとやっていますが、初めて色々なガイドの中から選べる状況ができたことが、大変結構なことだと思っております。お客さまが満足していただけるようなガイドツアー

一というのをやっていく必要があると思ひまして、今後もガイドの研鑽とか、そういったものができていけばよろしいのではないかと思ひます。

課題としては、やはり先ほどの営業時間の拡大とも関連しますが、なかなか（室堂まで）上がっていくのが困難で、私はもう現状5月のゴールデンウィークとお盆の8月とかも予約が入ってきているのですが、毎日4時、5時に行かなきゃいけないことになりますので、ツアーのガイドに関しての行きやすさみたいなものが大切じゃないかと思ひております。

他には、ガイドのスキルアップについて、せつかくこの組織ができたので力を入れていければと思ひております。今後も手数料を支払ってもいいので、TATECOには頑張ってもらいたたいと思ひます。

【山田座長】

ありがとうございました。

【渡辺副座長】

ガイドの話が出たのでちょっとついでにお話しします。ガイドの重要性は今のお話のとおりで、ガイドの組織化ということは大変素晴らしいことだと思ひます。

小さいことですが、一つ指摘、お話ししたいのですが、最後4ページ下のガイドの特典としてというところに、アルペンルート年間パス制度の導入、新規ガイドの参入促進について書いてあります。これがすごく重要なことと思ひます。世界的に見ても、例えば「ガイドが観光地の入場料を払わないで」と言うとな変な言い方ですけど、要はガイドが自由に中に入れる制度です。それはお客さまを案内するのを主体にするか、自分の研鑽のためという観点もありますが、富山県はこれが遅れています。

【山田座長】

そうですね。

【渡辺副座長】

ですので、立山黒部貫光(株)さんがこういう道筋を付けていただくことは非常に重要なと思ひます。最終的にはお客さまへ、それから県へのメリットになるわけですけど、こういった特典制度は、ぜひ勧めてもらいたたいと思ひました。小さなことですが。

【山田座長】

それでは他にいかがでしょうか。

では、そろそろ時間も限りがございますので、次のプロジェクトに進めたいと思ひます。次は「11黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化」「12カルデラ体験学習会の周知強化等」について、県からご説明いただきます。

●11黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化

●12カルデラ学習会の周知強化等

(資料に基づき、事務局(富山県観光振興室)より説明)

【山田座長】

ありがとうございました。それでは、今のご説明につきまして皆さん方のご意見をお願いいたします。

【関西電力(株) 二階堂北陸支社総務部長】

関西電力北陸支社の二階堂でございます。資料のご説明ありがとうございます。今ほどございましたように、まずは30年の取り組み検討状況ということで、公募見学会については2019年度においては休日、土曜・日曜・祝日4日間ということ、弊社といたしましても富山県とご相談させていただきながら、開催させていただくということでございます。

あと、31年の取り組みの中で、商品化の開始に向けた準備ということは富山県でご準備されるということでございますけれども、弊社といたしましても、おおむね5年ということではございますけれども、この黒部ルート of 安全対策工事に万全を期して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

それから一点ご質問でございますけれども、資料に記載の取り組み検討事項の開始に向けた準備の中にございます、運行スタイルの高付加価値化というところでございますけれども、今時点でどのようなことをお考えなのか、お分りの範囲で教えていただければと思います。よろしくお願ひします。

【山田座長】

それでは今のご質問に対しまして、ご説明お願ひいたします。

【富山県観光振興室 田中参事・観光戦略課長】

今ほどご質問いただきましたが、今後販売戦略を検討するというところで、運行スタイルの合理化・高付加価値化のため、お客さまの満足度を高める旅客サービス、これは必要じゃなかろうかと、一つポイントとしてあげております。ただ車両に乗って移動して運んでいくと、それだけでいいのかというのもありますので、今もそれなりに工夫は当然されているというふうに私ども思っておりますけど、よりツアーに参加いただく方の満足度が高まるように、どのような取り組み・アイデアがいいのか、有識者の方からも伺った上で、もちろん関西電力さんともいろいろご相談しながら進めていこうと、そのような内容でございます。

【山田座長】

ありがとうございました。それでは他の委員の方からのご意見いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、先に次の内容を説明して、最後に少しお時間取りましようか。では、次は「15携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリアの解消」、そして「17立山～弥陀ヶ原ロープウェイ」、及び、「21登山道の整備」についてご説明いただきたいと思ひます。

●15携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリアの解消

●17立山～弥陀ヶ原ロープウェイ

●21登山道の整備

(資料に基づき、事務局(富山県情報政策課、富山県観光振興室、富山県自然保護課)より説明)

【山田座長】

はい、ありがとうございました。

それでは3つのプロジェクトの説明が終わりましたので、皆さまからご意見いただきたいと思えます。いかがでしょうか。関係省庁の方々でも自治体の方々でも結構です。

【林野庁中部森林管理局富山森林管理署 梅木署長】

9ページ、立山～弥陀ヶ原ロープウェイの資料をご覧いただきたいと思います。今回の報告区間で、ゴンドラリフトが新たに設置されているわけでございます。この整備概要の中身を見せていただきますと、支柱の台数として大観台から弘法に13基、弘法から弥陀ヶ原に22基が明記されております。

これはゴンドラリフトの能力的なものから算出されていると思いますが、大観台から弘法区間は、まだ標高が低い分、高い木がございます。ゴンドラリフトのケーブルの下の伐採、かなりの規模で行わなければいけないと思います。山を走っている高圧線をご覧になると分かるのですが、山の中が逆モヒカン状態で、ぱーっと線状で木がなくなる部分が出てまいります。これはかなり景観上の問題になります。

支柱だけの数を見ていくと、景観上の影響は少ないと受け取られがちですが、「実際作ってみたら、そうでもなかった・・・」という話にならないように、今後の方向性でも書いてあるのですが、よく皆さんで検討していく必要があるかと思えます。以上です。

【山田座長】

ありがとうございました。他に何かありますでしょうか。よろしければ今日ご説明があった7つのプロジェクト全体的なことでも結構でございますので、ご意見お願いいたします。

【環境省国立公園課 中尾課長】

環境省の国立公園課の中尾と申します。よろしく願いいたします。林野庁さんのほうからコメント、ご意見がありました9ページのことでございますけれども、今回のゴンドラリフトにつきましては、景観等への影響は決して小さくはないと考えております。

また、先ほど県さんからのご説明で、中期的に検討をということでしたけれども、中期的とは大体どのくらいのスパンで考えていらっしゃるのでしょうか。また、自然環境保全の調査、調整に相当時間を有すると書いてありますけれども、実際に調査に入られているのでしょうか。

【山田座長】

ありがとうございます。それでは今のご質問に対してのご説明お願いいたします。

【富山県観光振興室 田中参事・観光戦略課長】

中期的にと表現しておりますが、まず想定ルート②の立山～美女平間のロープウェイの整備を優先的にするという事ですので、当然それ以降ということになりますので、期間がいつまでというのはなかなか申し上げられないと思います。

また、検討については、引き続きいろんな社会経済情勢、いろんな条件がありますので、それを踏まえながら対応していく、そのようになろうかと思えます。

【山田座長】

ありがとうございます。何かご意見をお願いいたします。

【立山町 廣瀬商工観光課長】

4ページの滞在プログラムの充実ですが、町としても非常に重要な取り組みと認識しております。TATECOについては町としても支援していきたいと思っております。森田委員にお聞きしたいのですが、TATECOという取り組みが始まって、実際に申し込みの状況は純増しているというふうに思っております。それと、TATECOができたことでの効果というのを、少しお聞きしたいと思っております。

【山田座長】

では、お願いします。

【株式会社エコロの森 森田代表取締役】

もともと会社として室堂や弥陀ヶ原でガイドツアーをしていたんですけども、TATECOから20名以上の申し込みがありました。具体的な件数は忘れたのですが、かなり申し込みがありました。特にこのTATECOは、立山黒部貫光さんのアルペンルートのホームページにバナーがあるのですが、そこを入り口として前日とか前々日とかに急に予約がありまして、それに対応できれば非常に良いと思うんですけども、そういう新しい申し込みの入り口ができたことは非常に効果があったと思えます。特に、私がやっているところは、室堂の散策など、平易というか難易度1みたいな感じのものですから、山岳の登山ツアーよりはやっぱり申し込みが多かったです。さっき永崎さんがおっしゃっていましたが、もうちょっとその分野のガイドさんが増えると、そのニーズはもっとあるのではないかなと思えます。

【山田座長】

ありがとうございました。いかがでしょうか。佐伯さんお願いします。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

まず10ページ、安全登山の対策ということで、協議会にも参加させていただきまして、内容は分かっております。基本的に先ほどもお話ししましたが、立山一帯というのは自然公園ですので、その自然をいかに環境への負荷なく見ていただくかと、利用するかというのが基本じゃないかなと思っております。そういう意味で、オンライン登山届のシステムとか、グレーディング等々、なるべく環境に負荷が少なく、最低限登山道標識等々ぐらいで収めておく。あるいはWi-Fiと携帯基地局の整備ということで、アンテナを若干立てております。これに関しても

当初は環境省サイドさんのほうからは、かなりの抵抗はありました。ここまで認めていただきましたけれども、やはりこの程度ぐらいのハード整備で抑えておくべき問題ではないのかなと思っております。

今回登山道整備ということで、ずいぶん自然保護課さんを中心にしたところで、いろいろと対策打っていただきましてありがとうございます。特にこの10ページ部分は良く対策打っているのではないのかなと思って、私は評価しております。以上です。

【山田座長】

ありがとうございました。すいません、森田さんからもう少しお話が。

【㈱エコロの森 森田代表取締役】

カルデラ体験学習会について質問です。カルデラ学習会の旅行商品化ということで、大手の会社さんがいっぱい入っておられるようなのですが、例えば地元の旅行会社とかの着地型、うちの会社がこういうものを扱うことができる可能性というのは、将来的にあるのですか。要件とかはあるのですか。誰でもできないような何かがあるのか。それとも参入可能なのかということを知りたいと思います。

【富山県観光振興室 田中参事・観光戦略課長】

ハードルがすごく高いということはございませんので、実際どんな形でツアーを企画されるだとかご相談いただければ、その後それでまた相談をして対応できると思います。

【山田座長】

ありがとうございました。いかがでしょうか。

それでは、皆さまからいろんなご意見いただきました。本当にありがとうございました。それでは、最後に全体を通しまして、渡辺副座長から一言いただけますでしょうか。

【渡辺副座長】

最後は山田先生にお任せしますが全体的なことで、一つ二つぐらいお話ししようかと思います。冒頭で山田先生がおっしゃったように、私たちはこの会議で立山黒部を世界的なブランドにしようと思って立ち上がったのですね。ブランド化は、もちろんそんな簡単にできることではないと思うのですが、重要な要素としてはやはり旅行商品、観光商品、観光サービスの品質、これをいかに高めていくかということでしょうし、プロモーションでそれをいかに広めていくか、告知していくかということも併せて、重要なのだと思います。

ここ1~2年、急に出てきた言葉で、オーバーツーリズムという言葉があります。観光公害と訳す方もいらっしゃいますけども、どちらかというと論調としては、地域の観光が地域の方にネガティブな影響を与える、そこを避けなきゃいけないということになります。一方で、観光推進する派として忘れてはいけないのは、オーバーツーリズムによって観光客の満足感が減ることなのです。ですので、今回この議論の中で、いわゆる待ち時間について永崎さんおっしゃったように、これもオーバーツーリズムとまではまだ言えませんが、それは当然ながら満足感に対してネガティブな影響を与えているということですから、これも避けなきゃいけな

い。

その解消策として、乱暴な人は1,000人の普通の観光客を相手にするよりは5人の富裕層を相手にしろとか、ヨーロッパではそうでしょうかね、そういうように言う方もいらっしゃいます。一理あるといえばあるんですけども。ただ、当然ながら私たちの立山黒部はそういう段階にはまだないと思いますので、今の例でいえば1,000人の方の満足を考えなきゃいけないのかもしれないかもしれません。その方策としてはキャパシティーを増やしていくことが一つの在り方です。京都、ヴェニス、ヴェネツィア等とはちょっと状況が違いますから。そういう意味で、キャパシティーを増やしていくことでは、今日ご説明のあった、早朝に早く出すとか、あるいは関電さんの見学会で200人ぐらい増えるのでしたか、これは正しい方向に進んでいるなど感じます。ですので、今のオーバーツーリズムでお話したその顧客満足感というところも大事だとするならば、受け皿ももちろん気を付けなければいけません。キャパシティーを増やしていくということが正しい方向かなというふうに思います。

それともう一つなんですが、釈迦に説法ですが、観光サービスというのは社会経済に大きく影響される商売です。世界的に言えば、2003年にSARS、もうずいぶん昔の話になりますが、世界の国際観光が大きく減りました。最近ではマイナスが起きてもレジリエンスというのでしたか、復興が非常に早くなったと言われます。とはいえ私たちが扱っている観光サービスは、環境、経済、社会経済に非常に影響しやすい、されやすいということです。今ネガティブなことばかりでなくて、ポジティブなこともあって、例えば来月10連休がありますよね。これは1年ちょっと前は誰も予想してないですよ。何が言いたいかというと、今回、中長期というお話もありましたけども、こういった形で立山黒部のブランド化に向けた計画が着々と進められているという感じがします。それは大変素晴らしいことですが、この先のプラスあるいはマイナスの影響が出てくることも考えられます。それは影響受けやすい商品を、私たちはサービスを扱っているわけですから、その辺を非常にフレキシブルに対応していくということが、冒頭でお話したブランド化、顧客満足につながっていくのではないかなと思います。

【山田座長】

ありがとうございました。「立山黒部」世界ブランド化推進会議が立ち上がり、ワーキンググループの開催も今日で5回目になりました。各プロジェクトに対して皆さんからご意見をたくさん頂き、その中で進めてきたことや実際の取り組みを見ていて感じるがあります。それは、この「立山黒部」世界ブランド化推進会議がきっかけとなり、富山県や関係者の取り組みの中で、これまでできなかったことができ、やれなかったことがやれるようになったということです。本日の進捗状況をお聞きしていても、取り組みがかなり進歩していると思います。

ブランド化するという事は、どこかの時点で完成することはありません。私たちは将来、未来にむけて絶えず努力をしていかななくてはならない。その中には経済活性化の話もあれば、保全の話もあります。今日、機内で私が外国人の方と話していたのは、富山の高低差にある自然の豊かさです。海から北アルプスの山々が見えますが、まちは春なのに山頂はまだまだ雪景色です。そして、自然の多様性です。滞在中にはその豊かで多様な自然の恵みを食として頂くことや体験することができます。この自然環境を活用することや次世代に残していくことの重要性を実感します。

私はスイスや他のいろんな国々のお手伝いをしてきました。現在、どこでも自然環境を保全・

保護するためには相当なコストがかかります。特に近年は自然が自然を壊すという状況があります。だからこそ、人の手が入らないとなかなか自然も守れません。今後、地域や自然環境をより良くしていく中で、経済活動としての利活用と共に保全・保護のバランスをしっかりと考えて取り組むべきだと考えます。これから様々な施策、事業を進めていくとグレーだったものが白黒はっきりしてくることで、解決しなくてはならないものものはっきりと黒として出てくるのではないかと思います。

今日の報告の中で、資料を見ていてすごく良かったと思うのが、5ページのところの滞在プログラムでモニターツアー、実販売ツアーのトリップアドバイザーでの投稿された口コミで、一番上に「立山がなぜ富山県民の誇りなのか分かった」とお客さまが評価されているところです。これまでの取り組みが進歩している評価としても、この一言に尽きるのではないかと思います。特に富山県民が立山黒部に対してどう思っているのかが、しっかりと旅行者へメッセージとして伝わっている証拠だと思います。もちろん、もっとたくさんの意見を集めるべきなのですが、その中でもこういった県民の立山黒部に対する愛着や地震、誇りが顕在化していることがわかる意見を一つでも多く集まるような努力を私たちはすべきだと考えています。

では、時間も少し過ぎて参りました。ここで意見交換は終了させていただきます。本日も皆さまから多くのご意見、ご提言をいただきました。本当にありがとうございます。これらを十分検討いたしまして、次の世界ブランド化推進会議につなげていくこととなります。本当に皆さまありがとうございました。

以上